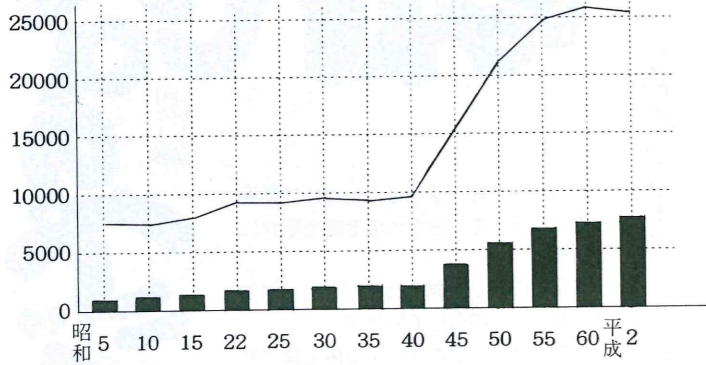


人・世帯数 国勢調査人口・世帯数



町での国勢調査の集計は、人口二万五千二百六十五人、世帯数七千八百世帯でした。

前回調査(昭和六十年)と比較すると、人口八十一人減(〇・三六割減)世帯数四百三十八世帯増(五・九割増)となります。

人口 二万五千二百六十五人
世帯数 七千八百世帯

平成二年国勢調査 — 結果速報 —

年次	世帯数	人口		(人口) 対前回増減率	
		総数	男		
大正9年	1,483	6,560	3,109	3,451	
14	1,580	6,841	3,265	3,576	4.3
昭和5年	1,636	6,891	3,310	3,581	0.7
10	1,777	7,510	3,643	3,867	9.0
15	1,828	7,744	3,722	4,022	3.1
22	2,128	9,355	4,477	4,878	20.8
25	2,125	9,291	4,456	4,835	△ 0.7
30	2,159	9,479	4,563	4,916	2.0
35	2,209	9,324	4,500	4,824	△ 1.6
40	2,352	9,387	4,526	4,861	0.7
45	4,081	14,884	7,230	7,654	58.6
50	5,655	20,604	10,004	10,600	38.4
55	6,808	24,252	11,785	12,467	17.7
60	7,362	25,346	12,267	13,079	4.5
平成2年	7,800	25,265	12,145	13,120	△ 0.3

※大正9年、14年、昭和5年調査は本庄村大字平谷・川角の区域を除いた数値。
昭和22年の世帯数は昭和23年8月1日現在で調査した常住人口調査から推計した。

(企画創生課)

人口の減少については、地区別に見ると、石神の二百六十六人の減をトップに、東山・中溝・貴船・柿迫・平谷・神田の順で合わせて千二百二十七人減少しています。

逆に、人口の増加は、萩原の二百六十三人をトップに、川角・呉地・新宮・城之堀・出来・初神で千四十六人の増加となっています。

また、男女別人口では、男、百二十二人の減、女、四十一人の増で、全体では八十一人の減少となりました。

人口減少の要因としては、転入転出による社会減少と、出向による単身赴任者の増などが考えられます。

また、世帯数の増についてみると、一世帯当たりの平均家族数は三・二四人で前回調査より〇・六割減少し、核家族化などの進行によるものと考えられます。

選管だより

選挙権と入場券

太郎「投票日が近づくとも入場券が届くけど、それが届かなかったら投票できないの？」

花子「選挙権の要件を満たしていればできるよ。」

太郎「選挙権の要件って？」

花子「日本国民である事、満二十歳以上である事は知ってると思うけど、もう一つ住所要件があるの。」

太郎「何年も町内に住んでいる事かなあ。」

花子「引き続き三か月以上住んでいないとだめなのよ。町内の選挙(町長選挙、町議会選挙等)は町内に、県の選挙は県内にと選挙に

よって住所の要件が変わるの。」

太郎「それを全部満たしているのに入場券が届かなかったら選挙管理委員会へ問い合わせた方がよさそうだね。それじゃ券をなくした人はどうなるの。」

花子「免許証等の身分証明書を投票所にもって行って、本人であることが確認されれば投票できるよ。また入場券を持って行っても、生年月日を聞いて本人であることを確認するのよ。」

太郎「二重投票などの不正のない選挙にするためとても慎重で厳密に行われるんだね。ぼくたちも協

保健婦だより

あなたの肝臓は健康ですか?



お酒を飲む人はだれでも肝臓が気になるはず。ことに年末年始は酒量が増えがちで働きものの肝臓に重い負担がかかります。あなたは大丈夫ですか。

1 アルコールと肝臓

成人健診を受けた人は、もうすでに結果を通知しましたが、その中にγ-GTPという検査項目がありましたね。これはアルコールによる肝臓の病変を見る指標にもなっています。また中性脂肪が増えている場合もアルコール性の病気を疑うことができるのです。

日本人に特徴的なのは脂肪肝から移行した肝線維症というものでアルコールによる肝疾患のパターンです。これがさらに進むと最終的には肝硬変となり、肝臓へ進行するおそれも出てきます。最近大量アルコールによる心臓発作や不整脈を引き起こす人も少なくありません。神経や臓器に障害を起こしていることもぜひ知ってほしいと思います。

2 お酒との上手な付き合い

アルコールが原因となっている病気の場合、治そうと思うならま

こんにちは 農業改良普及員です

十二月月上旬には農協の店頭で並びますので、あなたもぜひ我が町で穫れた黒大豆を味わってみてください。

又、婦人グループによる加工品づくりも盛んに行われています。(写真2 黒大豆羊かん)

今年から熊野町の生産組合や研究会を順次紹介します。

初回は、町の特産品である黒大豆の栽培にとり組んでいる「熊野町黒大豆生産組合」(組合長 仏円太郎さん)です。

町での黒大豆生産は古く、今から約二十年前にさかのぼります。しかし盛んに栽培されはじめたのは十年ほど前のことで水田農業確立対策や黒大豆の高値により面積を拡大してきました。生産組合は昭和五十九年に結成され、現在組合員百十名、面積約十ヘクタール、出荷量約十二トンを誇っています。これは広島県で一番大きな産地となっています。(写真1 熱心に研修する組合員)

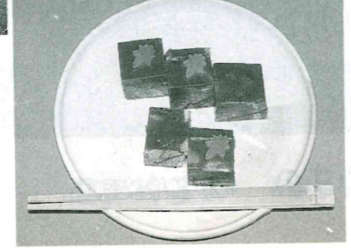
熊野町黒大豆生産組合紹介

作物の凍害について
作物の体温が零度以下になると体内の水も凍り、細胞が死んでしまいます。そのため耐寒性の強い作物は、体内の水を凍りにくくして自ら身を守っています。例えば、水が凍る温度でも砂糖水は凍りません。ですから冬のダイコンは甘いのです。

- では、実際の栽培で注意することをあげてみましょう。
- ①耐寒性品種を選ぶ。
 - ②タネまきの適期を守る。
 - ③土寄せ、霜よけなどをする。
 - ④チソンの多用を避け、カリ、リン酸を多めに施して植物体内の糖分含量を上げる。
- なお、土の凍上防止には、堆肥を多く施し地下水位を低くすることが有効です。
- (産業課)

写真1

写真2



ご寄付

ありがとうございます

- ◎社会福祉協議会へ
- 金一封(香典返しとして)
- 寺田 耕安 様(新宮)
- 金一封
- 上馬場 正生様(萩原)



お酒がおいしくて、食べるものもまたおいしい。ほがらかになつて話題も明るくなり、人間関係の輪が広がるような、お酒との上手な付き合い方を実行しましょう。

(福祉保健課)